

イエスのことば 第34回

しかし、イエスは言われた。「彼らが行く必要はありません。あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい。」(マタイ 14:16)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言(紀元27年の春、過越の祭り)を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架(紀元30年の春、過越の祭り)、復活、昇天

□文脈の確認

1. 前回は、「承」の部を終えた。先駆者ヨハネの死であった。先駆者の死は、メシアの死の前触れである。メシアは、春の過越の祭り、それも紀元30年の過越の祭りにおいて十字架にかかって死ぬ。それまでの1年、残された時間を何に用いるのか。今回から、転の部、弟子訓練である。
2. 紀元29年の春、過越の祭りの頃から、同年の秋、仮庵の祭りまでの、約6か月間において、イエスは、異邦人の地域へ4回、旅行した。それまで宣教活動の拠点としていたガリラヤ地方は、先駆者ヨハネを処刑した領主ヘロデ・アンティパスの領域である。ヘロデ・アンティパスは、イエスの行動を注視していた。
3. 異邦人地域への4回の旅行は、退避と休息の時であったと同時に、弟子たちの訓練を目的とした。指導者層によるメシア拒否、イエスはそれを「聖霊を冒瀆する罪」とか、「赦されない罪」と呼んだが、そのメシア拒否の結果、神の国のプログラムは、【奥義としての神の国】の段階に入った。弟子たちは、メシアが地上におられない中、奥義としての神の国の時代を生きていかねばならない。そのための訓練が必要である。
4. 異邦人地域への旅行第1回、イエスは、ガリラヤ地方を離れて、別の領主ヘロデ・ピリポ二世の領域(ガリラヤ湖の北東地域、ユダヤ人の人口は少数)の中の町ベツサイダの近くへ退いた。
 - (1) ヨハネの福音書は、次のように記す。「ユダヤ人の祭りである過越が近づいていた」(ヨハネ6:4)。時は、紀元29年の春、過越の祭りが近づいていた。メシア宣言からちょうど2年、イエスの公生涯において3回目の過越の祭りである。そして、十字架の死まであと1年である。
 - (2) イエスの公生涯において過越の祭りは4回。この3回目だけ、イエスはエルサレムに行かなかった。指導者層によるメシア拒否の直後だったからである。しかし、まだ多くの民衆がイエスについて来た。今回は、「五千人の給食」と呼ばれる奇跡の出来事である。これを通して何を弟子たちは訓練されたのか。

□五千人の給食のアウトライン

項目	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ
1. 使徒たちが派遣先から帰還してきた		6 : 30	9 : 10a	
2. ベツサイダへ舟で移動 群衆が陸路で先回りした	14 : 13	6 : 31~33	9 : 10b ~ 11a	6 : 1~2
3. ピリポへの質問				6 : 3~7
4. 群衆に神の国について 教え、病人を癒やした	14 : 14	6 : 34	9 : 11b	
5. 食べ物をどうするか の問答	14 : 15~17	6 : 35~38	9 : 12~14a	6 : 8~9
6. 給食の奇跡	14 : 18~21	6 : 39~44	9 : 14b~17	6 : 10~13

□「3. ピリポへの質問」と「5. 食べ物をどうするか」の問答」を時系列で見ると・・・

イエスは目を上げて、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て、ピリポに言われた。

イエス 「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか」

イエスがこう言われたのは、ピリポを試すためであり、ご自分が何をしようとしているのかを、知っておられた。

ピリポ 「一人ひとりが少しずつ取るにしても、200 デナリのパンでは足りません」

イエスは群衆に多くのことを教えた（神の国について、病人の癒やしも）

夕方になった。

弟子たち 「ここは人里離れたところですし、時刻ももう遅くなっています。村に行って自分たちで食べ物を買うことができるように、群衆を解散させてください。そうすれば、彼らは周りの村や里に行き、宿を取り、何か食べることができるでしょう。私たちは、このような寂しいところにいるのですから」

イエス 「彼らが行く必要はない。あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい」

弟子たち 「私たちが出かけて行って 200 デナリのパンを買い、彼らに食べさせるのですか」

イエス 「パンはいくつありますか。行って見て来なさい」

彼らは確かめて来て言った。

アンデレ 「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう」

弟子たち 「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません。私たちが出かけて行って、この民全員のために食べ物を買うのでしょうか」

イエス 「それを、ここに持って来なさい。人々を 50 人くらいずつ組にして座らせなさい」

弟子たちはそのとおりにして、全員を座らせた。

そこでイエスは、五つのパンを取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。

□この出来事を通して弟子たちが教えられたこと

群衆に食べ物を自分たちで与える必要が生じることがあり得ること

しかし、自分たちにはその力はない

必要なものは、イエスが与えてくださる

しかも、イエスが与えてくださるときには、思いもしなかったものを用いてくださる

弟子たちはイエスが与えてくださるものを受け取り、配分する

きちんと配分するためには、前もって群衆を組にして座らせておくこと（秩序）

□弟子たちの使命

ここでのレッスンは、パンや魚の食べ物を与えることであつたが、この教えは、霊的な食べ物を与えるという弟子たちの本来の使命につながる。

ヨハネ 6：27 **なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなる、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。**

□弟子たちの後日、エルサレム教会での適用実践

使徒 2：40～42、43～47、4：32～35・・・エルサレム教会では、実際に食べ物を配分することも必要となった。イエスを信じると、信者たちは「会堂から追放される」（ヨハネ 12：42）＝社会的・経済的に追放処分となり、失業したからである。

使徒 6：1～6・・・使徒たちは自分たちの本来の使命は、食卓の世話ではなく、祈りとみことばの奉仕であることを理解していて、適切に分担した。